

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
輪島市	七浦地区(矢徳、鶴山、百成大角間)	令和3年3月23日	

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	11.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	9.8ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	9.6ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4.8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.0ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

高齢化が進み、また後継者不足で耕作放棄地の増加が課題。(矢徳)  
 高齢化及び中山間地・イノシシ等の被害があり、保全管理が出来にくく、担い手・後継者が不足。圃場が遠く、時間がかかり委託も難しく、近年は耕作放棄地も増加。本年からの中山間地域等直接支払制度(5期)の協定締結で5年間は維持管理はなんとか出来る予定ではあるが、以降は現在のところ未定である。(百成大角間)

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

入作を希望する認定農業者や新規就農者の受入れをする事で対応していく。(矢徳)  
 耕作できなくなった農地については、中心経営体となる方に担ってもらい、集落は支援していく。(百成大角間)

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	A	ブドウ	1.7 ha	ブドウ	3.7 ha	
	B	水稲	0.4 ha	水稲	0.4 ha	
			ha		ha	
計	2人		2.1 ha		4.1 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。